

広島県立広島高等学校公民科学習指導案

指導者 高山望

- 1 日時 平成23年11月10日(木) 第3時限(11:05~12:00)
- 2 対象 高等学校第1学年5組 40名(男子20名 女子20名)
- 3 場所 高等学校第1学年5組教室
- 4 単元名 民主政治の原理
- 5 単元について

単元観	社会契約説と民主政治の基本原則について学ぶ単元である。国民主権や多数決原理については中学校社会科公民分野で学んでいるので、内容的には新鮮味に欠ける面があるが、高等学校現代社会としての既習事項である「西洋近代思想」との関連を指摘することで、知的好奇心を刺激したい。社会契約説の発達など歴史的な内容も多いが、この後の日本国憲法の学習につなげるよう、現代につながる意義を考えさせたい。
生徒観	アドバンスト/スタンダードに分けた学級編成のスタンダードクラスである。定期考査の平均点は60点弱である。定期テストでは、単語で解答する設問では得点できるが、文章の選択肢から正解を選んだり文章で正しく簡潔に説明する力は十分とはいえない。 7月の授業満足度調査によると、「授業の中で知的好奇心が喚起され、思考力を高めることができる」が84.2%、「全体的に満足できる授業である」が92.1%であるが、「自分の考えを発言したり話し合ったりしている」は68.4%である。基礎的内容は理解しており、図表や資料から情報を読み取ることができるものの、自分の考えにあまり自信が持てない生徒もいることが読みとれる。授業中にも、指名されると周囲の生徒と小声で相談し確かめようとする姿が見られる。 考えたり分析したりしたことを言語的に伝える活動を積み自信を持たせることが課題である。
指導観	歴史的事項や用語の羅列にならないよう、人物に注目させてエピソードを盛り込みつつ関心を持たせる。知的好奇心を刺激するために、発問を工夫して常識をゆさぶり「なぜそうなのか」を考えさせる。また、一方的な講義でなく、話し合い、挙手、発表などの活動を盛り込むことで、主体的学習態度を伸ばすとともに、関心を深めた者が図書室でさらに関連図書を調べるなどの発展的学習を促したい。

6 単元の目標

民主政治の原理を理解し、主権者としての在り方生き方を主体的に考えることができる。

7 単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 資料活用 of 技能・表現	エ 知識・理解
日常生活と民主政治の関わりについて、関心を持って考えようとしている。	民主政治の発達の歴史を踏まえ、主権者としての在り方生き方を考察している。	日常生活と関わりの深い政治的な出来事について、資料から読み取り、自分の考えをまとめ表現している。	民主政治の原理に関する基本的な事項について理解している。

8 単元の指導計画

- 1 民主政治とは
 - 1 時限目 民主政治の原理(本時)
 - 2 時限目 民主政治のしくみ・世界のさまざまな政治体制
 - 3 時限目 日本国憲法と三つの原理
 - 4 時限目 基本的人権の保障(1)(法の下での平等・自由権的基本権)
 - 5 時限目 基本的人権の保障(2)(自由権的基本権・社会権的基本権)
 - 6 時限目 新しい人権と人権の国際的広がり

9 教科のテーマ

生徒の主体的学習活動を促す授業の工夫

10 本時の展開

(1) 本時の目標 社会契約説と民主政治の基本原則について歴史的背景をふまえて理解する。

(2) 学習の展開

	学習内容・学習活動 (生徒)	指導上の留意点 (教師)	評価の観点 評価規準 (評価方法)
導入 5分	<p>本時の学習目標を確認する。</p> <p><身分による政治から民主政治へ> 「民主主義は最悪の政治形態である・・・」というチャーチルの言葉の意味を考える。</p>	<p>○中学校での学習内容を確認させる。 ・国民主権, 多数決原理など</p> <p>○「民主主義はよいもの」という一般的な認識を挙手で確認した後に, チャーチルの言葉を紹介する。 ・民主主義によくない点があるとしたら何か。 ・後に続くのはどんな言葉か。</p>	<p>【興味・関心】質問を理解して挙手し, 発表する。(挙手と発表)</p>
展開 40分	<p>既習事項を確認する。 ・近代の特徴</p> <p>国家成立の思想について, 王権神授説と社会契約説を対比して理解する。 ・欧米の市民革命</p> <p>社会契約説の思想家3人について表を作成する。</p> <p>ホブズのエッセイと王権神授説の違いを考察する。</p> <p><民主政治の基本原則> 基本的人権の保障 (自然権思想) ・法の支配と人の支配を比較して理解する。 ・法の支配と法治主義の相違を考察する。</p> <p>人民主権≒国民主権</p> <p>権力分立 ・モンテスキュー</p>	<p>○近代の特徴を思い出させる。(教 70) ・人間尊重, 科学技術など</p> <p>○社会の成り立ちを比較させる。 ・近代以前・・・社会のしくみはあらかじめ決まっている。身分制社会 (王権神授説による正当化) ・近代・・・社会のしくみは人々が決める。平等の思想 (社会契約説) ・市民革命について詳しくは世界史, 政治・経済で学ぶ。</p> <p>○特に重要なキーワードと著書をマークさせ, 必ず表に含ませるよう指示する。(資料集 p153) ・ホブズの「万人対万人の闘争」 ・ロックの「抵抗権」 ・ルソーの「一般意思」</p> <p>○自然権の意義 ・明治憲法と日本国憲法の相違にも関わる</p> <p>○法の支配と人の支配 (資料集 p 154) ・水戸黄門の政治は民主政治か ・法の支配と法治主義の相違点</p> <p>○中学校で学習した部分は語句の確認で済ませる。 ・人民主権はやや難しいので, 現段階では国民主権と同義として理解しておく。</p>	<p>【知識・理解】既習知識を活用している (発問への答え)</p> <p>【興味・関心】指示を理解し作業している (ノート作業観察)</p> <p>【思考・判断】ホブズのエッセイが社会契約説とされる理由を考察している (発表)</p> <p>【思考・判断】法の支配と法治主義の相違を考察している (ノート作業)</p>
まとめ 10分	<p>チャーチルの言葉の空欄部分の言葉について考えを発表し, 民主政治の重要性を確認する。</p> <p>本時の学習を振り返る。</p>	<p>○チャーチルの言葉の後半部分を紹介する。</p> <p>○次時の予告をする。</p>	<p>【思考・判断】民主政治の重要性を考察している (発表)</p>

○55分授業の活用

- 1 既習事項の振り返りにより, 単元の関連を意識させる。
- 2 発展的な内容, エピソードを盛り込むことにより, 知的好奇心を刺激する。

○授業参観者に見てもらいたいポイント

- 1 「なぜそうなのか」を生徒が十分に思考する授業になっているか。
- 2 生徒の既習事項や発問への答えを生かした授業になっているか。

(資料)

チャーチルの言葉

「実際のところ、民主制は最悪の政治形態とすることが出来る。これまでに試みられてきた、他のあらゆる政治形態を除けば、だが」

(黒板提示用印刷物)

民主主義は最悪の政治形態である。

を除いては。